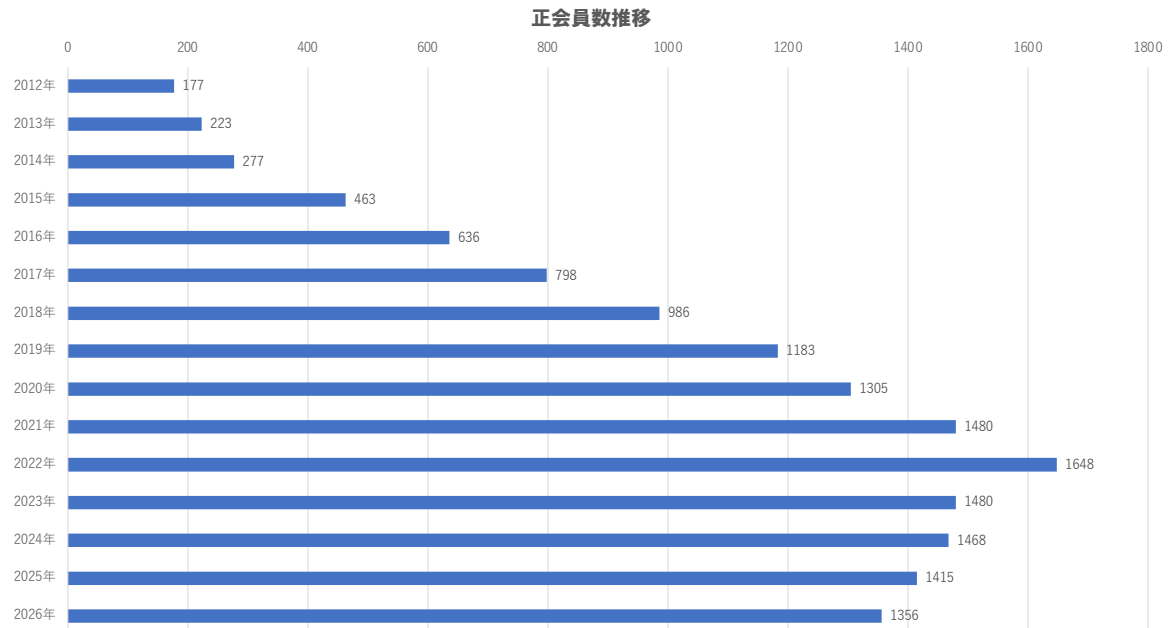


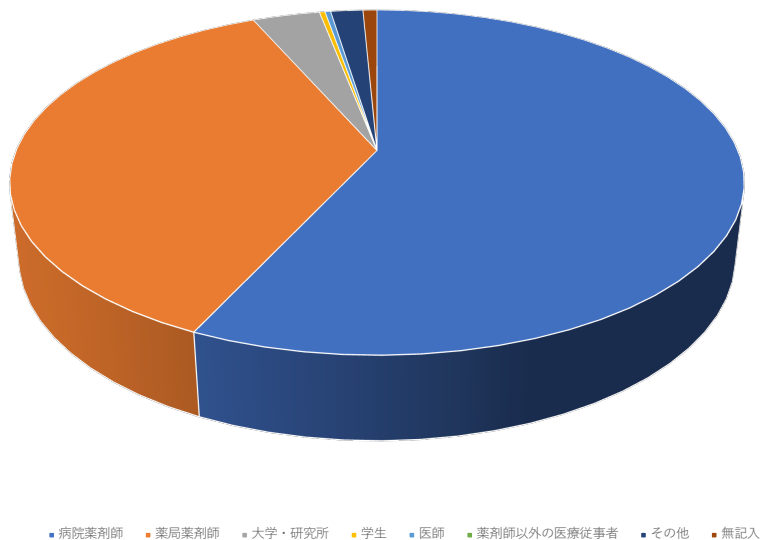
会員数の推移



会員総数 **1356名**（2026年6月9日時点）

職種別会員数

職種	会員数
病院薬剤師	772
薬局薬剤師	495
大学・研究所	48
学生	4
医師	4
薬剤師以外の医療従事者	0
その他	23
無記入	10
計	1356



会員総数 **1356名**（2026年6月9日時点）

糖尿病薬物療法認定薬剤師制度 認定者数

糖尿病薬物療法
履修薬剤師 256名

糖尿病薬物療法
認定薬剤師 158名

	病院 薬剤師	薬局 薬剤師	大学・ 研究所	その他	計
認定薬剤師	111	40	5	2	158
履修薬剤師	135	114	3	4	256

(2026年4月現在)



編集委員会の活動

<活動内容>

学会誌「くすりと糖尿病」の電子化について

【現行】

- 現在は、原著論文のみ学会員対象にJ-STAGEにて閲覧できる
- 学会誌の冊子は年に2回発行している

【2027年1月以降】

- Vol.16-1より、冊子体での発行を廃止し、全面的な電子化（オンライン公開）へ移行





編集委員会の活動

<活動計画>

- 学会誌「くすりと糖尿病」を充実させるための企画の検討



広報委員会の活動

<活動内容>

* ホームページにおける各種広報活動

- ①P認定単位を受理した研修会一覧の登録：47件
- ②認定薬剤師・履修薬剤師一覧の更新
- ③お知らせの登録 (計67件) 9月～12月：22件 1月～4月：16件 5月～8月：29件
- ④イベントカレンダーへの登録 (計50件) 9月～12月：20件 1月～4月：10件 5月～8月：20件
- ⑤その他の更新 (定款・規程等の修正含む) 5件

* 学術集會会場での啓蒙活動

- ①2026年7月18・19日 第13回日本糖尿病協会年次学術集會（京都）（専用ブースにて）
- ②2026年7月20日 第31回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集會（東京）（専用ブースにて）
- ③2026年9月5・6日 第14回日本くすりと糖尿病学会学術集會（広島）（専用ブースにて）

* 公式SNSでの広報活動

- ①Facebook掲載件数 (計51件) 9月～12月：44件 1月～4月：2件 5月～8月：5件
11月14日世界糖尿病デーのブルーライトアップ掲載 (10件+スライドショー1件)
- ②Instagram掲載件数 (計50件) 9月～12月：43件 1月～4月：2件 5月～8月：5件

* ニュースレター（会員へのメール配信） 12報（月1回）

年次学術集會の案内（演題募集、参加募集など）、研修会等の案内など



広報委員会の活動

<活動計画>

1. ホームページにおける各種広報活動
2. 公式SNS（Facebook・Instagram）での広報活動
 - ①第15回学術集会（東京）
 - ②本学会主催の研修会
 - ③世界糖尿病デーのブルーライトアップ
 - ④本学会主催あるいは共催して開催する研修会や他学会学術集会シンポジウム等
3. 学術集会会場での啓蒙活動
 - ①2027年7月 第14回日本糖尿病協会年次学術集会（専用ブースにて）
 - ②2027年10月30・31日 第15回日本くすりと糖尿病学会学術集会（東京）（専用ブースにて）
4. ニュースレター（会員へのメール配信）（年12回程度）
年次学術集会の案内（演題募集、参加募集など）、研修会等の案内など
5. 委員会開催＜年3回程度：Web会議 2回 and 対面 1回（第15回学術集会開催期間中）＞

8

Japan Pharmaceutical and Diabetes Society



研究推進委員会の活動報告

1. 教育研修委員会と合同のZOOM研修会開催
（2026年3月12日（木））
研究計画書の書き方グループワーク～計画書作成の第一歩～。
2. 学術集会での相談コーナーの設置
（2025年11月2日（土）3日（日））
第13回くすりと糖尿病学会学術集会において、研究推進委員会ブースを設置し、活動紹介・参加勧誘を実施。
3. 会員対象アンケート調査の検討
 - ・テーマ1: 点鼻グルカゴン製剤の薬剤師を対象としたアンケート調査。
 - ・テーマ2: アウイクリについての薬剤師を対象としたアンケート調査。

9

Japan Pharmaceutical and Diabetes Society



研究推進委員会の今年度の活動計画

1. 年間計画の策定

- 可能なミッションを立案し実行する。

2. 研究推進委員会企画セミナーの開催(年2回開催予定)

テーマ: 研究計画書の書き方グループワーク～計画書作成の第一歩～。

- 内容: ブレイクアウトルームを活用し、参加者が研究テーマについてSGDを実施する。プロダクト作成後に発表を行う。
- 実施形式: ZOOMの使用、100分/回(昨年実績の継続)。
- 第1回: 2026年10月22日。 第2回: 2027年3月頃を予定。

3. 会員対象アンケート調査の実行

- 研究テーマ2案を実行する。
- テーマ1については2026年7月に開始した。テーマ2は来年1月頃にアンケート開始予定。

4. くすりと糖尿病学会学術集会における研究支援

- 2026年の学術大会において、委員会ブースを設置し、研究相談を実施。

10

Japan Pharmaceutical and Diabetes Society



教育研修委員会の活動

<活動内容> オンライン研修会 18:50～20:30 (P認定1単位)

2025年

- 10月 3日(金) 糖尿病と感染症のはなし
- 11月 6日(水) 研究計画書を作成してみよう
- 11月12日(水) 変わるのは、言葉か、それともわたしたちか
- 12月 4日(木) 1型糖尿病を持つ方への薬物療法支援～実践編

2026年

- 2月17日(火) JPDS認定制度 自験例の書き方講座
- 3月12日(木) 研究計画書を作成してみよう
- 4月21日(火) 当たり前にも意味がある、人に聞きにくい糖尿病の話
- 6月22日(月) 1型糖尿病を持つ方への薬物療法支援
- 7月 9日(木) ガイドブックを読み解く: 執筆者が語る背景と実践①

11

Japan Pharmaceutical and Diabetes Society



教育研修委員会の活動

<活動計画> オンライン研修会 18:50～20:30 (P認定1単位)

2026年

9月25日(金) ガイドブックを読み解く: 執筆者が語る背景と実践①

10月22日(木) 研究計画書を作成してみよう

12

Japan Pharmaceutical and Diabetes Society



NW委員会の活動 地域の学術大会とのコラボ企画計画・実施と各地域でのCDEの会等で当会のPR、災害対応部会との連携(情報収集)

<活動内容>

報告があった各地域の学術大会でのシンポジウム開催

九州沖縄ブロックNW委員会

○第14回九州山口薬学会ファーマシューティカルケアシンポジウム

○第85回九州山口薬学大会 シンポジウム(糖尿病領域)開催

近畿ブロックNW委員会

○日病薬近畿学術大会(大阪)シンポジウム

中部ブロックNW委員会

○第64回愛知県糖尿病薬物療法研究会開催

関東ブロックNW委員会

○関東ブロック第55回学術大会

第14回九州山口薬学会ファーマシューティカルケアシンポジウム

災害時の糖尿病患者支援 ～過去の体験から考える～

オーガナイザー・座長: 伊東 健一 (独立行政法人地域医療機能推進機構 宮崎江南病院
日本くすりと糖尿病学会九州沖縄NW委員会)

座長: 濱野 峰子 (大分赤十字病院 薬剤部)



多くの学術大会の糖尿病関連シンポジウムでは、当会のNW委員・正会員が多数関わっています。今後も継続予定！ **乞うご期待！**

NW委員は病院薬剤師が多く、将来的に保険薬局の先生の会も考えていきたい。

Japan Pharmaceutical and Diabetes Society



技能研修小委員会の活動

基礎編修了者 合計 80名
アドバンス編修了者 合計 47名

<2025年度活動内容>

第1回 アドバンス編 3/2 15名(Web開催 80名枠)

第2回 基礎編 6/22 40名(東京現地開催 60名枠)

第3回 アドバンス編 8/24 32名(Web開催 80名枠)

第4回 基礎編 9/28 7名(大阪現地開催 30名枠)

第5回 基礎編 11/30 33名(Web開催 100名枠)

(上記研修会にて開催定員を超える申し込みは無く、参加人数枠の不足は生じていません)

ファシリテーター養成講習会 8/7 15名(Web開催)

14

Japan Pharmaceutical and Diabetes Society



技能研修小委員会の活動

基礎編修了者 合計 74名 *第4・5回分は含まず
アドバンス編修了者 合計 26名 *第6回分は含まず

<2026年度活動計画>

基礎編およびアドバンス編の研修内容をガイドブック第2版に合わせて一部改変

第1回 アドバンス編 4/12 26名(Web開催 80名枠)

第2回 基礎編 6/14 65名(Web開催 100名枠)

第3回 基礎編 7/26 9名(宮城現地開催 20名枠)

第4回 基礎編 8/30 18名参加予定(東京現地開催 50名枠)

第5回 基礎編を10月4日に兵庫現地開催する

第6回 アドバンス編を11月15日にWeb開催する

(上記研修会にて開催定員を超える申し込みは無く、参加人数枠の不足は生じていません)

15

Japan Pharmaceutical and Diabetes Society



試験委員会の活動

<活動内容>

2025年10月 第8回試験問題校正、受験案内送付

2025年12月14日 第8回試験実施、採点

2026年5月 2026年度第1回メール会議にて新ガイドブックに基づき出題基準改定を審議

2026年7月 2026年度第2回メール会議にて試験問題作成分担及びCBT方式導入を協議

2026年8月 2026年度第3回メール会議にて試験問題作成調整とIBT方式導入を協議

2026年8月—9月 新ガイドブックによる第8回試験問題作成

<活動計画>

2026年10月 第9回試験問題校正、受験案内送付

2026年12月13日 第9回試験実施(東京都 昭和薬科大学)、採点

16

Japan Pharmaceutical and Diabetes Society



利益相反委員会

<活動内容/活動計画>

1.理事、諸行事の関係者のCOI管理

2.学会誌への投稿者のCOI管理

17

Japan Pharmaceutical and Diabetes Society



ガイドブック編集委員会の活動

<2025年度活動内容>

- ・ガイドブック第2版を発売(2025年9月26日)
- ・ガイドブック第2版のPDFをJPDSの活動使用に限り提供



ガイドブック編集委員会の活動

<2026年度活動内容>

- ・ガイドブック第2版の販売実績「1,116部」(8.13現在 書店在庫を含む)
- ・ガイドブック第2版のPDFをJPDSの活動使用に限り提供
- ・他の委員会と協力してガイドブック第2版の販売促進につながるような活動を行う
技能研修会の参照資料として参加者への持参を推奨する
教育研修委員会主催研修会にて「ガイドブックを読み解く」シリーズが企画・開催されている

ガイドライン委員会の活動

＜活動内容＞

①第13回くすりと糖尿病学会学術集会にて、厚労省の疾患別対応マニュアルを中心にシンポジウムを企画、実施した。

当時厚労省担当 現医薬品医療機器総合機構の太田美紀先生からは、疾患別対応マニュアルの糖尿病の執筆で、学会でご尽力を頂いたとお礼が述べられ、是非普及させて欲しいと力強いエールを頂いた。特別の企画の内容は、抄録に記録されており、参加の会員に疾患別マニュアルの意義、調剤後のフォアアップの意義が講演された。

特別企画3 座長 朝倉俊成先生、篠原久仁子

講演1 疾患別マニュアルに込められた理念と薬剤師に託された未来 当時厚労省担当 太田美紀先生

講演2 薬剤師に期待する糖尿病患者との会話

順天堂大学 河盛隆造先生

講演3 薬局における糖尿病の対応マニュアルと地域連携

恵比寿ファーマシー 篠原久仁子

講演4 糖尿病薬物療法認定薬剤師が支える心不全×糖尿病 日本医科大学 多摩永山病院 林太佑

②薬学ゼミナールからのEーラーニングの講演に企画内容含めて協力。厚労省の疾患別対応マニュアル糖尿病編を担当した。

＜活動計画＞

①糖尿病の疾患別マニュアルを普及させる観点からくすりと糖尿病学会会員向けの研修セミナーを12月頃を予定。

②プレアボイド収集活動のアンケート調査の計画について、

介入への取り組みが診療報酬。調剤報酬やタスクシエ/シフトにも影響する取り組みとして、タスクシフトシエ/シフト部会とも共同で実施予定。



将来計画委員会の活動 ＜2025年度の活動内容＞

◎令和7年度 代議員懇談会

『JPDSの未来を見据えて！学会の役割と価値創造』: オンラインでグループワーク

➡ 代議員31名が参加し、学会運営に関する4つの課題について議論

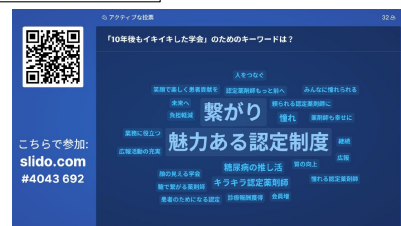
代表議員懇談会（グループワークまとめ）	代議員懇談会（グループワークまとめ）
グループ①：新卒実習3つのマニフェストを定めるために会員ができること ●「ボクシヤ」活動の必要性を多くの薬剤師に広げること ●近隣で医療従事者として教育する必要がある。学生時代に教育者となる必要もある。 ●学生生活を共にした研修会員として、「パンフレット」や雑誌に掲載される機遇は「ファンクラブ」的なものを創設 ●アカデミックな研究と実践とで実地できる人材育成のために、 ○「インフォメーション・センター」を設立し、人材育成することへの推進力がある ●健康食の正しい情報発信と治療の質を向上させること ●薬物の管理、ネットワーク等を通して会員が元気の維持増進指導士としての役割、家族に対する啓発、心療内科や出産後のモニタリングなど ●団体のあり方については、新しい面での新たな組織的取り組みが必要 グループ②：農薬会・サマーキャンプにおける薬剤師の役割 ●農薬会やサマーキャンプに参加しているように見えても、 ●参加して農薬会やサマーキャンプに参加し体験型サマーキャンプ事前学習の目的をいかに果たすのか ●参加者に与えるメリットがないか ●参加者が利用できようような教材や資料の作成ではないか	グループ③：学会主催の研修会の在り方を考える 研修会の費用が高額かつかかるものが多い収支差であるので検討課題 - 認定講座を開催する旨を呼びかけ、参加費の実態に決定することを受託を受ける方法もある ●研修会の費用を抑えたいこと ○食事、会場、交通、LDE対策などにしたり「サマーキャンプ研修会年1回開催（非会員が参加して会員が増えること、このための方法を模索すること）」 ○「からかいっちゃん」をテーマにした「研修会」では解説型の研修会が「新卒発表時の薬剤師の特性、注意や副作用などを心得た上での知識」と「研修会」スタートアップ時などの設定と年々「同年代関係性を得るべきなのではないか」 グループ④：新規会員登録のためにできること ●新卒会員を増やすために ○「すべてアットホームな」運営で事務局に対して情報提供、ネットワーキング委員会連携し制度改善と普及、 ●会費減額制度の導入、経営者に対しての働きかけ（特に保険業では重要） ●おぼろけを減らすために ○「機能別分科会」の設置やフロンティア、若手職員数を高める - 認定講座の取得場所の告知や利用に相談できるようにバックアップ体制、認定までのスピードを速く

◎第13回学術集会【将来計画委員会企画：会場参加型シンポジウム】

『次世代を担う学会員の学会に対しての想いと今後について』

➡ 若手薬剤師活動部会によるアンケートや認定薬剤師について議論

◎10年後のビジョンを具体化し理事長へ提言





将来計画委員会の活動

<2026年度以降の活動内容>

◎令和8年度 代議員懇談会

【Zoomによるオンライン懇談会】 8月25日(火) 19:00～21:00

『JPDS未来戦略2026 ～10年後のビジョンを実現するためのアクションプラン～』

☞学術的発信 をテーマにグループワークを実施

◎第14回学術集会にてポスター展示

9月5日(土)～6日(日) 広島国際会議場 地下2階

『JPDSの役割と価値創造 ～次世代へ繋ぐ学会の未来戦略～』

将来計画委員会や若手薬剤師活動部会の取り組みの成果物を掲示することにより、
学会員が自由にJPDSの未来戦略について議論する場を提供する

22

Japan Pharmaceutical and Diabetes Society



糖尿病療養指導士部会の活動

<部会の目的>

日本糖尿病療養指導士認定機構に所属する、理事及び各委員(認定委員会、試験委員会、講習会委員会、編集委員会、広報委員会)相互の情報共有ならびにJPDSとCDEJ認定機構の連携等を図る

<活動内容>

1. 理事会、各委員会活動における課題への対応
2. CDEJ認定機構事務局から薬剤師に関連する情報収集への協力
3. その他理事長からの依頼事項への対応

23

Japan Pharmaceutical and Diabetes Society



薬局部会の活動

<活動内容>

「薬局薬剤師が今、困っていることを解決する研修会」として、
第14回学術集会(広島)にてシンポジウム開催

2026年9月6日(日)13:35~15:35

シンポジウム12

「明日から生かせるフォローアップ～薬局薬剤師の服薬支援のレベルアップを目指して～」

<活動計画>

糖尿病薬の説明に使用する資材の作成

24

Japan Pharmaceutical and Diabetes Society



インスリンケアサポート部会の活動

<活動内容>

2025年12月4日、2026年6月22日 研修会の企画と実施

2026年7月20日 第31回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会の実行委員として活動



25

Japan Pharmaceutical and Diabetes Society



インスリンケアサポート部会の活動

<活動計画>

- 患者会・サマーキャンプに関するアンケート調査をJPDS会員対象に実施し終了
回答数172名、集計しシンポジウムに活用、関連学術集会で発表予定
- 1型糖尿病を持つ方への薬物治療支援に関する研修会の企画と実施 年2回
- 日本小児・思春期糖尿病学会評議員として年次学術集会に参加、発表

26

Japan Pharmaceutical and Diabetes Society



タスクシェア/シフト部会の活動

<活動内容>

- ①第13回くすりと糖尿病学会学術集会にて、特別企画として、専門薬剤師とタスクシフトのシンポジウムを企画し、実施した。(詳細は、抄録集に記載)

厚労省の専門薬剤師担当の先生、専門薬剤師の第三者評価担当の薬剤師認定制度認証機構の理事長安原先生をお招きし、最新の国の方針、専門薬剤師の評価を第三者機関として 薬剤師認定制度認証機構が担う事が話され、今後は、薬剤師の質保証が求められると力説された。

特別企画1 座長 篠原久仁子、亀井美和子

講演1 日本の医療制度にかかる最近の動向と薬剤師に求められる専門性 厚労省 竹野伸洋先生

講演2 認定・専門薬剤師の質保証に向けて 薬剤師認定制度・認証機構 安原真人先生

講演3 学会が目指す糖尿病薬物療法認定薬剤師と医療貢献 新潟薬科大学 朝倉俊成先生

講演4 糖尿病患者の外来診療における医師から薬剤師のタスクシフト盛岡赤十字病院丹代恭太先生

<活動計画>

- ②プレアボイド収集活動のアンケート調査を実施予定

ガイドライン委員会で計画していたプレアボイド収集について、介入事例による貢献例を収集することは、タスクシェア/シフトにも影響するデータともなるため、ガイドライン委員会とも連携協力して、調査していく。

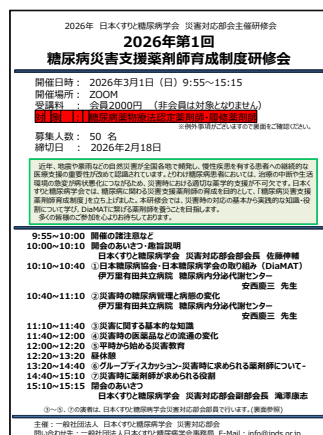
27

Japan Pharmaceutical and Diabetes Society



②糖尿病災害支援薬剤師制度研修会の開催

【資料 1】災害発生時のフローチャート



・開催日 : 2026年3月1日(日) 9:55~15:15

・開催方法：zoom

·次第

9:55~10:00 開催の諸注意など

10:00~10:10 開会のあいさつ・趣旨説明
10:10~10:40 ①日本糖尿病協会・日本糖尿病学会の取り組み
10:40~11:10 ②災害時の糖尿病管理・病態の変化
11:10~11:40 ③災害に関する基本的な知識
11:40~12:00 ④災害時の医薬品などの流通の変化
12:00~12:20 ⑤平時から始める災害教育
13:20~14:40 ⑥グループディスカッション・災害時に求められる薬剤師について
14:40~15:10 ⑦災害時に薬剤師が求められる役割
15:10~15:15 閉会のあいさつ

・参加人数：35名（学会関係者含む）

・修了証発行者数：34名（学会関係者含む）

糖尿病災害支援薬剤師制度研修会の修了者を通じて
災害発生時から情報収集のネットワークを構築した



①災害時初動マニュアルの改訂

②日本糖尿病協会とコラボした備蓄に関するアンケート調査

③第2回糖尿病災害支援薬剤師制度研修会の開催



アドボカシー部会の活動

<活動内容>

2025年7月19～20日

第12回JADEC年次学術集会

口演発表 日本くすりと糖尿病学会におけるアドボカシー活動

2025年11月2日

第13回日本くすりと糖尿病学会学術大会 JADEC共催シンポジウム

糖尿病スティグマに向き合う:薬剤師ができること、すべきこと

2025年11月12日

教育研修委員会研修会

「変わるのは、言葉か、それともわたしたちかーアドボカシーという視点で“ことば”と向き合うー」

30

Japan Pharmaceutical and Diabetes Society



アドボカシー部会の活動

<活動計画>

- ・ ネットワーク委員会委員が展開する地域主体のアドボカシー活動
(ネットワーク委員会・アドボカシー部会・教育研修委員会 共同事業)
- ・ アドボカシー活動に関する啓発資料の作成
- ・ 第14回日本くすりと糖尿病学会学術大会
シンポジウム3「アドボカシー活動の真の一步とは」
- ・ 教育研修委員会研修会 アドボカシー活動をテーマにした企画
- ・ 第31回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会
口頭発表「糖尿病におけるアドボカシーから見えてきた課題と可能性」

31

Japan Pharmaceutical and Diabetes Society



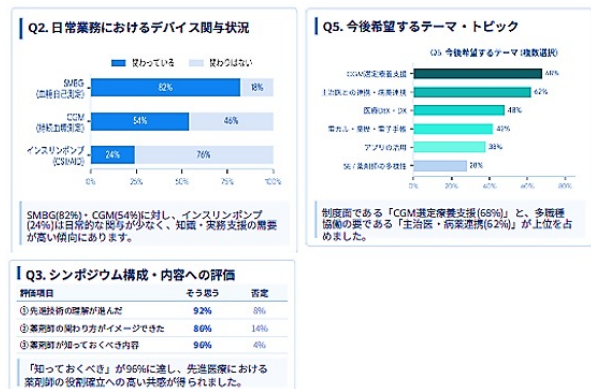
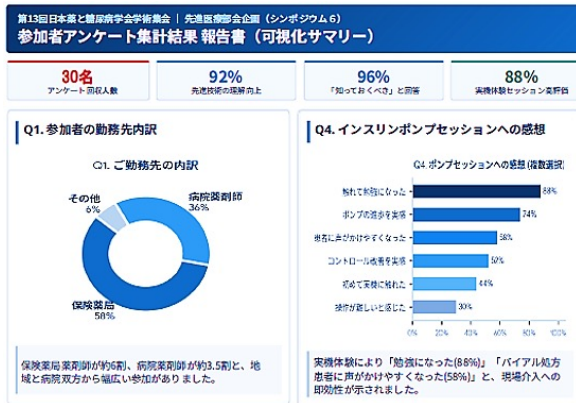
先進医療部会の活動

<活動報告>

対面部会:2025.11.3、Web部会:2026.8.14、他メール審議を実施した。

第13回学会において当部会企画のシンポジウム6を開催した。

シンポジウム後のアンケートから、先進技術の理解が進み、実機体験に高評価が得られた。薬剤師の役割やデバイスの知識需要が明確になり、CGM選定や医師・薬剤師連携が今後のテーマとされたので、本年のシンポジウム企画に活かすこととした。



Japan Pharmaceutical and Diabetes Society



先進医療部会の活動

<活動計画>

➤ 第14回JPDS学会学術集会 先進医療部会企画シンポジウム

座長:井上岳先生(北里大学 薬学部 薬物治療学III)
小出景子(慈誠会・光が丘病院 糖尿病センター)

講演

糖尿病先進機器治療の概要

小出景子

保険薬局薬剤師によるポンプ治療やCGM使用者との関わり

森貴幸先生(株式会社大和調剤センター)

先進機器を用いた糖尿病治療における薬剤師の関わりを考える

西田承平(岐阜大学医学部附属病院 薬剤部)

インスリンポンプにふれてみよう!

小出景子

住吉加奈(サンポート高松クリニック)

➤ 保険薬局薬剤師・病院薬剤師におけるCGMを活用した患者支援例を募集案(継続検討)

➤ 保険薬局薬剤師・病院薬剤師における医療の現場でのAI補完の実態報告(継続検討)



若手薬剤師活動部会の活動

<活動内容>

- ・「JPDS正会員の学会に対する意識調査」を実施し、正会員が学会活動に期待することや課題、今後の学会運営に求める方向性について把握した。
 - ▶ 第13回日本くすりと糖尿病学会学術集会 シンポジウム3「次世代を担う学会員の学会に対する想いと今後について」にて調査結果を報告。
 - ▶ 学会誌「くすりと糖尿病」に、アンケート結果を投稿予定。
- ・2025年代議員懇談会において、「学会の役割と継続的な発展～新規学会員獲得のためにできること～」をテーマに、学会の将来像や会員獲得に向けた方策について意見交換を行った。

34

Japan Pharmaceutical and Diabetes Society



若手薬剤師活動部会の活動

<活動計画>

- ・第14回日本くすりと糖尿病学会学術集会の広報活動を、学術集会実行委員と連携して実施する。
学術集会公式Instagramを開設し、SNSを活用した情報発信を推進する。
- ・薬学生への学会および認定制度の認知向上を目的として、学会作リーフレットを全国の薬学系大学へ送付し、将来の学会員獲得につながる広報活動を実施する。



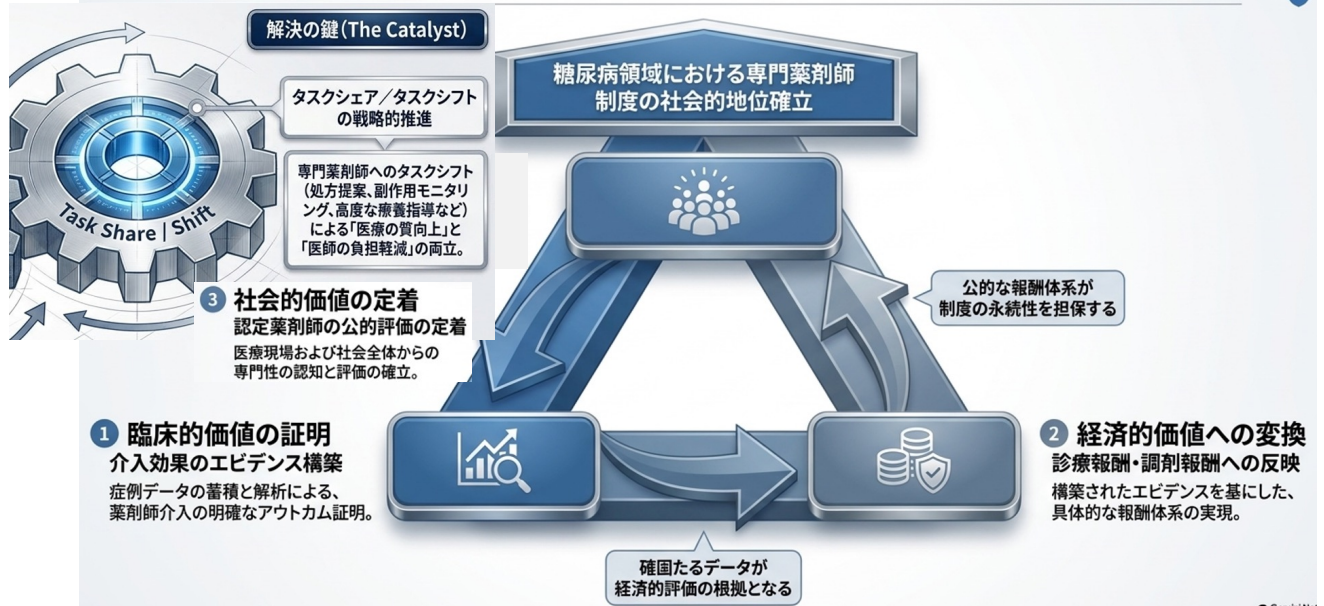
35

Japan Pharmaceutical and Diabetes Society



診療報酬に関わる将来構想ワーキングの活動について

糖尿病領域における認定薬剤師の「真の価値」を証明し、社会的なインフラとして定着させる



ビジョン実現に向けた戦略的ロードマップ（10年構想）

確実なデータ収集から社会実装へ。
段階的かつ不可逆的な価値向上のステップ

